



**Hewlett Packard
Enterprise**

Smart Update Manager 8.4.5 リリースノート

摘要

ここでは、このバージョンの SUM のリリース情報について説明します。このガイドは、Microsoft Windows、Windows Server、Linux、Smart コンポーネント、VMware の構成および操作、ならびにアップデートの実行に伴うデータ消失の危険性について理解している担当者を対象にしています。

部品番号: 869606-199
発行: 2019 年 9 月
版数: 1

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Microsoft[®]および Windows[®]は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

UNIX[®]は、The Open Group の登録商標です。

Linux[®]は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

オープンソースツール

ツール	バージョン	URL
Pegasus	2.13.0	http://www.OpenPegasus.org
Mongoose	X (商業用ライセンス - 6.7)	http://sourceforge.net/projects/mongoose/develop
Openwsman	2.4.12	http://sourceforge.net/projects/openwsman
Zlib	1.2.11	http://zlib.net
Curl	7.55.0	http://curl.haxx.se/libcurl
Gsoap	2.8.54	http://gsoap2.sourceforge.net
Libssh2	1.8.0	http://www.libssh2.org
Libxml2	2.9.4	http://www.xmlsoft.org
Libxslt	1.1.29	http://www.xmlsoft.org
OpenSSL	1.0.2i	http://www.openssl.org
Jsoncpp	0.5.0	
Sqlite	3.7.14.1	
Cygwin - xorriso	1.3.4	http://cygwin.com/index.html
Cygwin - rpm.exe	4.12.0	
Cygwin - rpm2cpio.exe	4.12.0	

表は続く

ツール	バージョン	URL
Cygwin - rpmkeys.exe	4.12.0	
Cygwin - sed.exe	4.4	
Cygwin - strings.exe	2.25.2	
Cygwin - cpio.exe	2.11	
Cygwin - grep.exe	3	
Cygwin - rm.exe	8.26	
Cygwin - sha512sum.exe	8.26	
Cygwin - tar.exe	1.29	
Cygwin - wget.exe	1.19.1	
Cygwin - gpg.exe	1.4.21	
jquery	1.8.3	
require.js	2.1.4	

リリースノート

Smart Update Manager

SUM は、HPE ProLiant、HPE BladeSystem、HPE Synergy、および HPE Apollo サーバー、インフラストラクチャ、および関連オプションのファームウェア、ドライバー、システムソフトウェアの保守と更新を行う革新的なツールです。

SUM は相互依存性の問題を回避するために、同時にアップデートできる関連ノードを特定します。

SUM の主な機能は、次のとおりです。

- ・ ノードに取り付けられているハードウェアや、インストールされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョンを検出する検出エンジン。
- ・ SUM は、アップデートを正しい順序で展開します。また、アップデートの展開前にすべての依存関係が満たされていることを確認します。
- ・ 相互依存性チェック。
- ・ 順を追って進む自動のローカルホストガイドアップデートプロセス。
- ・ Web ブラウザーベースのユーザーインターフェイス。
- ・ カスタムベースラインと ISO を作成する機能。
- ・ iLO レポジトリ用のサポート (Gen10 iLO 5 ノードのみ)。
- ・ 複数のリモートノード用のファームウェアとソフトウェアの同時展開。
- ・ SPP によるローカルのオフラインファームウェア展開。
- ・ すべてのモードでの広範なログ機能。

注記: SUM は、コントローラーに接続されているフラッシュ式ハードディスクドライブを含め、他社製のコントローラーをサポートしません。

アップデート推奨

推奨—新しい拡張機能、機能、および軽度のバグ修正が含まれています。すべてのお客様になるべく早くアップデートすることをお勧めしています。

後継情報

置き換えられるバージョン : 8.4.0

製品

このリリースは、以下の製品に適用されます。

SPP および関連する補足情報

最小の SPP バージョンは 2016.10.0 です。

サポートされるブラウザ

- ・ Internet Explorer バージョン 9、10、11
- ・ Edge ブラウザー：管理者として実行を使用して、SUM を起動してください。
- ・ Firefox バージョン 54.0 ESR (Linux) およびバージョン 18 (Windows) 以降
- ・ Chrome バージョン 24 以降
- ・ 画面解像度 1024 x 768 以上

サポートされるデバイス

このリリースをインストールすると、製品モデルで以下のオペレーティングシステムがサポートされるようになります。

実行先/展開先 システム	Windows ^{2, 3}		Linux ^{2, 3}		VMware ESXi/vSphere ²	
	ファームウェア	ソフトウェア	ファームウェア	ソフトウェア	ファームウェア	ソフトウェア
Windows	あり	あり	あり	あり	あり ¹	あり ¹
Linux	該当なし	該当なし	あり	あり	あり ¹	あり ¹
オフラインの SPP	あり	該当なし	あり	該当なし	あり	該当なし

オフライン SPP は、通常実行されるオペレーティングシステムに関係なく、サポートされるハードウェアにファームウェアを展開することもできます。

1. VMware vSphere ESXi 6.0 U2、6.0 U3、6.5 U1、6.5 U2、6.5 U3、および 6.7 U2/U3 のみ。SUM 8.4.5 は、VMware vSphere ESXi 6.0 U2/U3、6.5 U1/U2、および 6.7 U1 に対するドライバー/ファームウェアのオンラインアップデートをサポートします。

注記:

- ・ SUM 8.x では VMware vSphere ESXi 6.7 のアップデートはサポートされません。
 - ・ SUM 8.x では、インテル NIC カードがインストールされている VMware vSphere ESXi 6.0 サーバーの更新はサポートされません。
2. サポートされている OS バージョンを稼働する ProLiant ノード。
 3. IA64 システム上での SUM の稼働はサポートされません。

オペレーティングシステム

SUM は、以下のオペレーティングシステムでサポートされています。

- ・ Windows:
 - Windows Server 2012 R2
 - Windows Server 2016
 - Windows Server 2019

SUM では、Windows システム上で `admin$` が有効になっている必要があります。`admin$` 共有の有効化について詳しくは、<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh831453.aspx> を参照してください。

注記: SUM では、Windows クラスター環境はサポートされません。更新を展開するには、クラスターシステムからサーバーを削除してください。

管理者として実行を使用して、SUM を起動してください。

- ・ Linux の場合 :
 - Red Hat Enterprise Linux 6
 - Red Hat Enterprise Linux 7
 - Red Hat Enterprise Linux 7.7
 - Red Hat Enterprise Linux 8.0
 - SUSE Linux Enterprise Server 11
 - SUSE Linux Enterprise Server 12
 - SUSE Linux Enterprise Server 15

注記: SUM 8.4.5 は、以下のモジュールがインストールされた状態でテストされています。

- Basesystem-Module 15.1-0
 - Desktop Applications Module 15.1-0 (GUI 用)
 - Development Tools Module 15.1-0
 - Python 2-Module 15.1-0
 - SUSE Linux Enterprise Server 15- Sp1 15.1-0
-

Linux システムの場合は、root ユーザーとしてまたは `sudo` を使用して SUM を起動してください。

- ・ SUSE Linux Enterprise Server 15 U1
- ・ オフライン SPP または SUM ISO

❗ **重要:** SUM では、Linux ホストから Windows ノードの追加や、Windows ノードへのコンポーネントの展開はサポートされません。

詳しくは

[前提条件\(17 ページ\)](#)

言語

- ・ 英語
- ・ 日本語
- ・ 中国語（簡体字）

修正点

サーバーの iLO が高セキュリティモードのいずれかで構成されているか、ホスト認証が必要が有効になっている場合、iLO 認証情報が必要です。

SUM チェックサム

ファイル名	SHA-256 チェックサム
contents.txt	aab7190c7bb11648c9c5b758cd440daf0d039e050bae056648b0f8747b264ad1
sum845.zip	6518fef9d194a94b6d40358d8f080c38df8477f0af815b960cdc7e1536b2a9e54

問題と解決策

既知の問題

- ・ マルチ vSphere インストールバンドル（VIB）コンポーネント内の単一の VIB で新規インストールが必要とされている場合、その単一の VIB はデフォルトでアップデート対象に選択されません。SUM の GUI では、ノードのステータスが「アップデート不要」と表示されます。
- ・ 入力ファイルを使用して複数の VMware ノード（ロックダウンノードと非ロックダウンノードが混在）のアップデートを試みると、いくつかのノードのノード調査が、CIM サービスチケットの取得に失敗しました。ホストは vCenter %2 によってサポートされていませんというエラーで失敗します。

SUM に「Multiple connections to a server or shared resource by the same user...」というエラーメッセージが表示される

症状

「Multiple connections to a server or shared resource by the same user...」というエラーメッセージが表示される。

原因

SUM は、Windows ベースのサーバーで admin\$ 共有機能を使用し、リモートノードサーバーでファイルをコピーして必要な操作を実行します。SUM がリモート Windows ノードへの複数の接続を検出した場合は、Multiple connections to a server or shared resource by the same user, using more than one user name, are not allowed. Disconnect all previous connections to the server or shared resource and try again. と表示されることがあります。

アクション

1. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
2. 「net use」と入力します。
3. リモートノードで接続オープンが返されたら、net use <node_admin_share> /delete と入力します。
4. エラーが表示される原因になった SUM で操作を再試行します。

HPCISSS2 および HPCISSS3 ドライバーの更新

症状

インストールするドライバーについて明確でない。

アクション

Smart アレイ SAS/SATA ドライバーを更新するときに、レビュー/展開画面で HPCISSS2 と HPCISSS3 の両方のドライバーを選択した場合は、次の表を使用して、どのドライバーがインストールされるかを確認してください。

インストールされるドライバーバージョン	CISSS2	CISSS3
HPSAMD ドライバー	このドライバーを選択した場合のみインストールされます。	両方のドライバーを選択した場合は、CISSS3 がインストールされません。
HPCISSS2 ドライバー	インストールおよび更新されます。	
HPCISSS3 ドライバー		インストールおよび更新されます。

一部のノードで open_firewall コマンドが動作しない

症状

一部のノード上で、SUM が起動しノードを追加しますが、ノードのインベントリを作成すると失敗します。

アクション

一部のインスタンスで SUM がファイアウォールを開くことができません。これには、他社製ファイアウォールアプリケーション、Linux iptables DROP エントリ、および複雑なルールを持つファイアウォールが含まれます。open_firewall コマンドが動作しない場合、ファイアウォールを手動で開くと、SUM はノードを管理できます。

SUM のページが、Internet Explorer 11 で予期せず更新される

症状

SUM のページが、Internet Explorer 11 で予期せず更新される。

原因

これは Internet Explorer 11 の既知の問題です。

アクション

この問題を解決する方法については、Microsoft 社の Web ページ (<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/956196>) を参照してください。

一部のハードウェアおよびファームウェアについては、それらを検出して更新する前にドライバーおよび Enablement Kit またはそのどちらかをインストールする必要があります

症状

インストールにすべてのファームウェアコンポーネントを含めるために SUM を 2 回実行することが必要になる場合があります。

原因

これは、一部のハードウェア、つまり必要なファームウェアを検出するには SUM 用のドライバーが必要であるという要件に基づくものです。ドライバーを最初にインストールし、システムを再起動した後、SUM を再度実行し、インストールにすべてのファームウェアコンポーネントを含める必要があります。

アクション

1. サポートされる Windows または Linux OS の新規インストール上でオンラインアップデートを実行する場合、適切なすべてのドライバーが[レビュー/展開]画面に表示されますが、一部の該当するファームウェアコンポーネントが表示されない場合があります。
2. ネットワークアダプター (NIC)、ホストバスアダプター (HBA)、および iLO については、ドライバーまたは Enablement Kit をインストールしてそれらが SUM によって認識されるようにする必要があります。
3. iLO チャネルのインターフェイスドライバーがインストールされていない場合、iLO ファームウェアは、バンドルを選択ページまたはコンポーネントを選択ページ上で、インストールされたバージョンとして「CHIF が必要」のバージョンを表示し、ステータスとして「展開の準備ができました」を表示します。これは、iLO 2、3、および 4 のファームウェアに適用されます。ファームウェアのアップデートを試みても、ファームウェアがすでに最新の場合は、ファームウェアは更新されないことがあります。
4. 適切なドライバーがインストールされ、かつ、すべての Ethernet ポートが起動するまで、SUM は Broadcom NIC を検出しません。Ethernet ポートを起動するには、以下のコマンドを使用します。

```
# ifup ethX
```

または

```
# ip link set enoX up
```

5. Broadcom NIC 用のファームウェアを更新するには、以下の手順に従ってください。
 - a. SPP にある適切な Windows ドライバーまたは Linux ドライバーをインストールします。Linux サーバーをアップデートする場合、ドライバーは SDR または Linux ディストリビューションからも取得できます。
 - b. すべての Ethernet ポートを有効にします。
 - c. Broadcom FW アップグレードコンポーネントを実行します。

SUM がコンポーネントを解凍できない

症状

SUM がコンポーネントを解凍できません。

アクション

SUM では、Linux ユーティリティの `unzip` が必要です。

SUM に RPM コンポーネントが正しく表示されない

症状

SUM で、ファームウェア RPM コンポーネントに次のいずれかの現象が見られます。

- ・ ベースラインインベントリにファームウェア RPM がソフトウェアまたはドライバー RPM としてリストされます。
- ・ 展開画面にソフトウェアまたはドライバーコンポーネントだけが表示されます。
- ・ ベースライン画面にコンポーネント構成リンクが表示されません。
- ・ Linux ノード上の Virtual Connect コンポーネントのインベントリが失敗します。

原因

ベースラインの絶対パスにスペースが含まれます。

アクション

1. SUM からベースラインを削除します。
2. SUM をシャットダウンします。
3. ディレクトリ絶対パスから空のスペースを削除します。
4. `clean-cache` を実行します。
5. SUM を起動し、ノードとベースラインを追加し、更新を実行します。

ASCII 形式以外の文字を含むパスから SUM GUI が起動しない

症状

ASCII 形式以外の文字を含むパスから SUM を実行すると SUM GUI を起動できない (Windows、Linux)。

原因

Web サーバーはその URL の ASCII 形式以外の文字を解析できません。そのため、Web サーバーは SUM エンジンと通信できず、SUM GUI が起動しません。

アクション

ASCII 形式の文字のみを含むパスから SUM を起動します。

SUM に予期しない展開対象コンポーネントが表示される

症状

- ・ SUM にノードに適用されないコンポーネントが表示されます。
- ・ `cp030019.exe` が Gen10 サーバーのものを表示します。

アクション

コンポーネントを手動で選択解除して展開されないようにします。

リモートシステムが別のドメインにあると、SUM がインベントリの作成に失敗する

症状

リモートシステムが別のドメインにあると、SUM がインベントリの作成に失敗します。

アクション

SUM を実行しているローカルホスト上のユーザーアカウントに、リモートのドメインとノードの管理者権限があることを確認してください。

SUM でローカルホストノードを追加できない

症状

`smartupdate /s /target localhost /user sumtest\administrator /passwd ****` コマンドが渡されると、SUM でローカスホストノードを追加できなくなり、インベントリおよびアップデートを処理するための管理者権限を持っていない旨のメッセージが表示される。

原因

既に管理者としてログインしているため、ノード作成中に SUM が管理者の認証情報を再び受け入れることはありません。

アクション

希望の資格情報を使用して、管理者特権でのコマンドプロンプトから SUM を起動します。ローカルホストの認証情報は使用しないでください。

展開エラー：展開がスキップされ、Omit Host が設定される

症状

GUI を使用して Linux サーバーに SUM を展開すると（対話型モードでローカルホストのガイド付きの更新）、展開に失敗して次のエラーメッセージが表示される。`Deployment error. Deployment skipped as one of the installable has failed dependency and Omit Host is set.`

原因

強制的にコンポーネントを更新して、その依存コンポーネントがベースラインに存在しない場合、展開がスキップされて Omit Host が設定されます。

アクション

依存コンポーネントをベースラインに追加して、更新をもう一度実行します。

NVMe PIC コンポーネントのインストールに失敗する

症状

NVMe PIC コンポーネントをインストールしようとする、SUM からメッセージ `No reboot required for this component.` が表示される。

サーバーを再起動せずに SUM を再び実行すると、再起動が行われるまで該当のコンポーネントについて「要インストール」と表示されます。

原因

NVMe PIC コンポーネントのファームウェアイメージにブートフラグはありません。

アクション

NVMe PIC コンポーネントが展開全体の一部としてインストールされている場合は、サーバーをインストールしてから SUM の再実行を試みます。

サポートされていない Mellanox RoCE ドライバーが Linux OS の 545 シリーズアダプターに表示される

症状

サポートされているデバイスがシステムにインストールされていない場合でも、必要に応じて Mellanox RoCE ドライバー `mlnx-ofa_kernel-4.3-OFED.4.3.1.0.1.1.g8509e41.3.sles12sp3.x86_64.rpm` が表示されることがあります。

原因

サポートされている PCI デバイスは、コンポーネントにリストされています。ただし、SUM はまだ不正にこのドライバーを選択します。

アクション

展開用のドライバーコンポーネントは選択しないでください。

VMware ESXi ノードの追加後、スケーラビリティ実行中に SUM がクラッシュする

症状

混在環境では、SUM スケーラビリティを実行するためにその他のノードタイプと一緒に 15 VMware ESXi ノードを追加すると、SUM がクラッシュします。

原因

混在環境での 15 VMware ESXi ノードを使用したスケール実行は、SUM でサポートされていません。

アクション

混在環境ではこれ以上 VMware ESXi ノードを追加しないでください。

VMware Gen10 iLO 5 の展開後にシステムが自動的に再起動しない

症状

SUM を使用して VMware ESXi Gen10 iLO 5 ノードを展開した場合、システムは自動的に再起動しません。

原因

iSUT が AutoDeployReboot モードで構成されず、VMware ノードのメンテナンスモードが有効になっていないために、VMware ノードは再起動されません。

アクション

自動再起動を有効にするには、次の手順を実行します。

1. SUM の展開ページで、再起動オプションを必要な場合に設定します。
2. コマンド `sut -set mode=autodeployreboot` を実行して、iSUT を AutoDeployReboot モードに設定します。
3. VMware ノードでコマンド `esxcli system maintenanceMode set -e true` を実行して、メンテナンスモードを有効にします。

パーソナリティが FCoE または iSCSI に設定されていると、Emulex コントローラードライバーが Gen10 でのインストールに失敗する

症状

このコントローラーのパーソナリティが FCoE または iSCSI 用に構成されていると、Emulex コントローラーのドライバが Gen10 でのインストールに失敗します。同じ問題は、HPE OneView および iLO Amplifier Pack を使用してドライバのインストールを実行する場合にも発生します。

アクション

適切なドライバを、SUM、HPE OneView、または iLO Amplifier Pack 以外でインストールします。

RHEL 7 用 HPE ファイバーチャネルイネーブルメントキットが、libhbaapi パッケージで依存関係の失敗を示す

症状

SUM は、RHEL 7 サーバー用 HPE SN1200E ファイバーチャネルキットの依存関係の失敗を示します。

原因

RHEL 7 サーバー用 HPE SN1200E ファイバーチャネルキットには、OS にインストールされた libhbaapi が必要です。

アクション

libhbaapi-2.2.9-6.el7.x86_64.rpm をインストールして、更新を実行します。

iLO 4 ノードでインベントリエラー

症状

iLO 4 ノードのスカウティング中に不正な認証情報が指定された場合、それでもスカウティングは成功します。ただし、SUM ではエラー `Inventory Error. Re-enter Credentials` が表示されます。

原因

この動作は SUM の設計に従っています。SUM は、検出プロセス中に認証情報がなくても、iLO 4 ノードを識別できます。ただし、インベントリ中に、SUM は iLO 4 からデータを取得するための認証情報を要求します。

アクション

正しい認証情報を指定して、インベントリを続行します。

64 ビット Intel NIC コンポーネントのインストーラーが Gen9 VMware ESXi 6.0、6.5 で失敗する

症状

VMware ESXi 6.0 または VMware ESXi 6.5 を実行し、かつ HPE ネットワークアダプターで構成されるどの HPE ProLiant Gen9 サーバーでも、SPP バージョン 2018.03.0 以降を介して実行される HPE Intel オンラインファームウェアアップグレードユーティリティ for VMware のインストールが失敗する。

解決方法 1

原因

ライブラリの制限のために、問題が発生します。また、対話型モードではファームウェアコンポーネントがリストされず、自動モードではファームウェアコンポーネントが更新されません。

アクション

スタンドアロンモードでファームウェアを更新するには、次の手順を実行します。

1. https://support.hpe.com/hpsc/swd/public/detail?swItemId=MTX_87c83853cb5a4bc5949e9b0dd5#tab2 から HPE Intel オンラインファームウェアアップグレードユーティリティ for VMware をダウンロードします。
2. CP032772.zip に含まれる CP032772.txt に記載のインストール手順を実行します。

解決方法 2

アクション

SPP オフラインモードでファームウェアを更新するには、次の手順を実行します。

1. ISO または DVD のマウント、起動可能な USB キーの使用など、サポートされるいずれかの方法で、サーバーを起動して SPP を立ち上げます。

注記: USB を介して SPP を起動する場合は、自動オフラインアップデートが起動します。

2. 自動モードまたは対話型モードを選択します。
 - a. 自動モードを選択すると、以降は操作しなくてもファームウェアがサーバーで自動的に更新されます。
 - b. 対話型モードを選択する場合は、画面の指示に従います。
3. SUM を起動するには、画面上のファームウェアアップデートオプションを選択します。

セキュアブートがシステム上で有効であると、SUM インベントリは HPE Superdome Flex 上で失敗する

症状

セキュアブートを有効にすると、SUM インベントリは HPE Superdome Flex 上で失敗し、Linux のオンラインアップデートを続行できない。

アクション

セキュアブートを無効にして、展開を実行します。

Linux ホストは、非 ASCII フォルダー/パスの Linux ノードにインベントリを実行できない

症状

Linux ホストは、非 ASCII 文字が含まれるパスまたはフォルダーから起動する場合、Linux ノードにインベントリを実行できない。

原因

SUM は非 ASCII 文字が含まれるパスまたはフォルダーを読み取れず、RPM コンポーネントのパブリックキーの検証が失敗します。このため、インベントリは失敗します。非 ASCII 文字が含まれるパスから SUM を起動すると、Windows でも同じ問題が発生します。

アクション

ASCII 形式の文字のみを含むパスから SUM を起動します。

iLO 5 FW のバージョンを 1.37 より前にダウングレードした後に展開が失敗する

症状

高セキュリティモードで iLO 5 FW のバージョンを 1.37 より前にダウングレードするときにホスト認証が必要が無効になっている場合、展開が失敗します。

原因

ホスト認証の有効化または無効化は、iLO 5 FW のバージョン 1.37 以降でサポートされています。

アクション

iLO 5 FW のバージョンを 1.37 より前にダウングレードする場合は、iLO 認証情報を入力します。

4.75（以降）からの HPE Virtual Connect ファームウェアのロールバックが失敗する

症状

RHEL 64 ビット OS で、HPE Virtual Connect ファームウェアを VC4.75（以降）から 4.75 より前のバージョンにダウングレードすると、ダウングレードプロセスが失敗します。

原因

4.75 より前のバージョンへのダウングレードは、SUM が実行されているシステムで使用可能な一部の動的ライブラリに依存しています。それらのライブラリがシステムに存在しない場合、ダウングレードは失敗します。

アクション

1. 以下のライブラリがシステムにインストールされていることを確認します。

- ・ /lib/tls/libpthread.so.0
- ・ /lib/libdl.so.2
- ・ /usr/lib/libstdc++.so.6
- ・ /lib/tls/libm.so.6
- ・ /lib/libgcc_s.so.1
- ・ /lib/tls/libc.so.6
- ・ /lib/ld-linux.so.2

IE/ME ファームウェア RPM を手動でインストール中にラッパーのアップグレードがエラーになる

症状

smartupdate upgrade コマンドを実行すると、Gen10 Linux ノードで IE/ME ファームウェア RPM の展開が失敗します。

原因

IE/ME ファームウェア RPM の展開は、ファームウェアラッパーで実行できません。

アクション

通常の SUM モードを使用します。

RHEL8 および SLES15 SP1 では `smartupdate requires` が期待どおりに動作しない

症状

RHEL8 や SLES15 SP1 で `smartupdate requires` コマンドを使用すると、パッケージはインストールされず、`smartupdate` のリストは空であると表示されます。

アクション

1. `smartupdate requires` コマンドを使用せずに、ファームウェア RPM を手動でインストールします。
2. 残りのコマンドを実行してファームウェアをフラッシュします。

`smartupdate requires` にインストール用の `firmware-spsgen10/firmware-iegen10` が表示されない

症状

RHEL8 で `smartupdate requires` コマンドを使用すると、`smartupdate` のリストは空であると表示され、IE/ME コンポーネントはインストールされません。

アクション

SPP から IE および ME のコンポーネントをインストールします。

OS ノードで既存のタスクキューアイテムをクリアできない

症状

OS ノードは、既存のタスクキューアイテムをクリアしないで、展開エラーを表示します。

原因

この問題は、ユーザーが OS および iLO レポジトリベースのアップデートを実行したときに、リカバリ権限のない iLO 認証情報では削除できない保留中のタスクキューアイテムがある場合にのみ発生します。

アクション

こうしたキューをクリアするには、SUM で iLO タスクキューの作成者と同じ iLO 認証情報を使用します。

前提条件

任意のコンポーネントをシステムにインストールする前に、インストール手順で問題が発生した場合にシステムの最新のバックアップが利用できることを確認してください。

次の最小要件を満たしていることを確認します。

- ・ SUM が使用する一時ファイル用に 1GB 以上の空きディスク領域を使用できる。
- ・ SUM を起動するための 100MB 以上の空きメモリがある。

SUM は、ホストシステムの言語設定に従って表示言語を決定します。

Windows オペレーティングシステムの依存関係

- ・ WLDAP32.dll
- ・ OLEAUT32.dll
- ・ RPCRT4.dll
- ・ KERNEL32.dll
- ・ USER32.dll
- ・ SHELL32.dll
- ・ ole32.dll
- ・ ADVAPI32.dll
- ・ WS2_32.dll
- ・ GDI32.dll
- ・ NETAPI32.dll
- ・ IPHLPAPI.DLL
- ・ SETUPAPI.dll
- ・ dbghelp.dll
- ・ Secur32.dll
- ・ MPR.dll
- ・ VERSION.dll
- ・ WINMM.dll
- ・ admin\$は有効

Linux オペレーティングシステムの依存関係とユーティリティ

SUM を実行するシステムと、アップデートするノードには、以下の Linux ユーティリティをインストールする必要があります。

オペレーティングシステムの依存関係

- ・ libcrypt.so
- ・ libcrypt.so.1
- ・ /usr/lib/libqtsdm.so
- ・ /usr/lib64/libqtsdm-x86_64.so
- ・ /lib/cim/libqtsdm.so
- ・ /usr/lib/libemsdm.so

- ・ /usr/lib64/libemsdm.so
- ・ /lib/cim/libemsdm.so
- ・ /usr/lib/bfahbaapi.so
- ・ /usr/lib64/bfahbaapi.so
- ・ /lib/cim/bfahbaapi.so
- ・ linux-vdso.so.1
- ・ /lib64/libpthread.so.0
- ・ /lib64/libz.so.1
- ・ /lib64/libdl.so.2
- ・ /lib64/librt.so.1
- ・ /usr/lib64/libstdc++.so.6
- ・ /lib64/libm.so.6
- ・ /lib64/libgcc_s.so.1
- ・ /lib64/libc.so.6
- ・ /lib64/ld-linux-x86-64.so.2

必要な Linux ユーティリティ

- ・ coreutils
 - cut
 - ls
 - rm
 - uname
 - cat
 - chmod
 - chown
 - nohup
 - stat
 - su
 - echo
 - mkdir
 - find
 - mv
 - mknod
 - kcmodule
 - reboot

- cd
- exit
- shutdown
- df
- wc
- id
- dirname
- ・ mkisofs - レガシー (BIOS) ノード用のカスタム ISO イメージを作成するために必要です。
- ・ xorriso - UEFI ノード用の ISO イメージを作成するために必要です。
- ・ sed
- ・ rpm
- ・ bash
- ・ util-linux
 - kill
 - killall
- ・ shutdown
- ・ module-init-tools(lsmmod)
- ・ pciutils(lspci)
- ・ gawk
- ・ awk
- ・ grep
- ・ sambantim_auth
- ・ uidd
- ・ procps
- ・ dmidecode
- ・ ipmitool
- ・ sudo - リモートノードの sudo 認証情報を使用するために必要です。
- ・ model
- ・ dirname
- ・ df
- ・ GNU の開発ツール
 - strings
- ・ ldd
- ・ ldconfig
- ・ rpm2cpio - RPM パッケージファイルを抽出するために必要です。

- ・ cpio - RPM パッケージファイルを抽出するために必要です。
- ・ unzip
- ・ mount

❗ **重要:** VC または OA ノードを更新しようとしている場合は、SUM を実行するシステムに必要な 32 ビットライブラリがインストールされていることを確認してください。必要なコンポーネントについては、Service Pack for ProLiant コンポーネントノートを参照してください。

VMware リモートホストファームウェアの更新

VMware ESXi を実行するサーバーを更新するには、以下の手順を実行します。

1. Gen10 サーバーで実行されている VMware ESXi ホスト上に ESXi 用の iSUT をインストールします。
2. SUM を起動し、Gen10 サーバーを実行している VMware ESXi の iLO ノードの IP アドレスを追加します。
3. iLO 認証情報を使用して iLO ノードのインベントリを作成します。
4. 推奨されるコンポーネントを選択した後に、ファームウェアおよびソフトウェアのアップデートを展開します。

注記: 詳しくは、Smart Update Manager 8.4.0 ユーザーガイド (<http://www.hpe.com/info/sum-docs>) の SUM と iSUT を使用して VMware ソフトウェア Smart コンポーネントを Gen10 にインストールするを参照してください。

SPP には、最新リリースのファームウェアが含まれます。VMware ESXi 6.0 または 6.5、あるいは VMware vSphere 5.1 以降を実行する ProLiant サーバー用の推奨ドライバーおよびファームウェアバージョンについては、Hewlett Packard Enterprise のオンラインデポ (vibsdepot.hpe.com) から入手できる VMware のファームウェアおよびソフトウェアレシピを参照してください。SPP で入手できるファームウェアアップデートについては、Service Pack for ProLiant リリースノートを参照してください。SPP 2014.09.0 以降のリリースには、Hewlett Packard Enterprise カスタムイメージに含まれる Hewlett Packard Enterprise およびサードパーティ製のドライバーが含まれています。

リモートノードでの Linux の root 認証情報

root 認証情報を提供するか、sudo 権限のあるユーザーを提供するか、リモートノードで root 以外の認証情報と root 認証情報を提供することができます。

スーパーユーザーの機能を使用するには、ユーザーをすべての root 特権を持つスーパーユーザーとして構成します。また、root ユーザーとともに root 以外のユーザーを使用してコンポーネントをアップデートすることもできます。

Linux の sudo 認証情報を使用するための前提条件

- ・ 次のいずれかを指定します。
 - ユーザー名とパスワード
 - ユーザー名と SSH キーのファイルパス (PEM 形式)
- ・ sudo ユーザーに /var/tmp ディレクトリへの書き込みアクセスを提供します。
- ・ sudo ユーザーについては、/etc/sudoers ファイルにユーザーを追加します。以下に、各ユーザーの権限と指定値を示します。

- ユーザー : <Sudo_user> (ユーザーアカウントの実際の名前)
- 権限 : ALL
- 仕様 : ALL
- ・ sudo コマンドの実行時にシステムが root ユーザーのパスワードではなく sudo ユーザーのパスワードを求めると、 /etc/sudoers ファイルのエントリーを編集します。
- ・ 以下に、 /etc/sudoers でコメント化または削除する権限を示します。
 - ユーザー : ALL
 - 権限 : ALL
 - 仕様 : ALL

注記: このオプションは必ずすべてのシステム上でデフォルトの targetpw を指定して使用してください。

- ・ ログイン認証情報の SSH キーを sudo と組み合わせて使用するときには、システムがユーザーパスワードを要求しないように、 /etc/sudoers ファイルのエントリーを次のように編集します。
 - ユーザー : sudo_user
 - 権限 : ALL
 - 仕様 : NOPASSWD:ALL

root 認証情報での SSH キーファイルの使用

SUM では、パスワードを使用するか、SSH キーを指定することでログインできます。

手順

1. まず、SUM を実行しているノードで `ssh-keygen -t rsa` と入力します。SUM は、DSA 暗号キー形式もサポートします。DSA 暗号キーを作成するには、`ssh-keygen -t dsa` と入力します。パスフレーズはオプションです。
2. `.ssh/id_rsa.pub` ディレクトリ内にキーを保存します。root ユーザーの場合は、`/root/.ssh` ディレクトリを使用します。
3. キーを開き、次のテキストがあるかキーの最上部を調べて、秘密キーが PEM 形式であることを確認します。


```
----- BEGIN RSA PRIVATE KEY -----
```
4. 必要に応じて、更新するノードで、ルートレベルに `.ssh` ディレクトリを作成します。ディレクトリでの権限レベルを 700 に設定します。
5. 更新するノードに `.ssh/authorized_keys` ファイルがあるかどうかを確認します。このファイルが存在しない場合は、このファイルを作成または追加します。 `authorized_keys` ファイルに対する権限を 640 に設定します。

注記: ファイルを追加すれば、より多くのユーザーが秘密キーの使用を承認されます。

6. ホストノード上の `.ssh/id_rsa.pub` の内容をコピーし、リモートノード上の `.ssh/authorized_keys` ファイルに貼り付けます。
7. ホストノードと、更新するノードの間の SSH パスを開きます。

- a. `ssh root@10.0.0.1` と入力します。このパラメーターにより、シェルのパスが開きます。
 - b. `ssh root@10.0.0.1 uname` と入力します。このパラメーターにより、コマンドが実行され結果が戻されます。
8. SUM には、`id_rsa` (秘密キーファイル) へのアクセスと、オプションのパスフレーズが必要です。

注記: その他のアプリケーションで PEM 形式のパブリックキーが必要な場合は、`ssh-keygen -e -f id_rsa.pub > id_rsa_pub.pem` と入力して変換できます。キーを開き、`---BEGIN SSH2 PUBLIC KEY---`がある PEM 形式であることを確認します。

Windows システムで秘密キーを作成するには、PuTTY や PuTTY Key Generator (PuTTYGen) などのアプリケーションを使用します。詳しくは、<https://www.digitalocean.com/community/tutorials/how-to-create-ssh-keys-with-putty-to-connect-to-a-vps> を参照してください。

ファイルを PEM 形式にエクスポートするには、**Conversion > Export OpenSSH key** を選択します。

使用される SUM のネットワークポート

SUM では、特定のネットワークポートが使用可能である必要があります。ネットワークポートをロックダウンする場合は、ネットワークポートテーブルにリストされているポートが開いていて SUM がリモートのノードサーバーやホストに接続する際に正しく機能するかどうかを確認してください。これらのネットワークポートのロックを解除できない場合は、SUM をローカルで実行し、ネットワークベースのホストをその Web インターフェイス経由でアップデートする必要があります (OA、iLO、VC モジュールなど)。

注記: SUM で、必要なファイアウォールポートをローカルホストおよびリモートサーバーで自動的に開くには、`open_firewall` パラメーターを使用します。

ほとんどのノードタイプのアップデートには、SUM を実行するサーバーとノード間の双方向のネットワークトラフィックが必要です。SUM を実行するサーバーはローカル HTTP サーバーを作成します。このサーバーはファームウェアバイナリをノードに提供したりノードのステータスを通知したりするために使用されます。アップデートプロセスの進行中、リモートノードは HTTP リクエストを発行し、SUM を実行するサーバーにステータスのアップデート情報を提示します。ルーティングの問題が発生する場合、またはリモートノードから SUM を実行しているシステムに戻るトラフィックをファイアウォールがブロックする場合は、ファームウェアのアップデートのブロック、ステータス更新のブロックまたは遅延、あるいはその両方が発生している可能性があります。

SUM トラフィックは、初期通信の作成によって使用できるポートのいずれかにバインドされた後、専用の大きいポート番号 (1024 より大きい番号) に移すことができます。こうすることで、最初のポートを解放して新しいリクエストで使用できます。

SUM を実行中のシステム	ターゲットのノードタイプ	インベントリフェーズ		展開フェーズ	
		ターゲットへ	ターゲットから (SUM 7.3.0 以降)	ターゲットへ	ターゲットから (SUM 7.3.0 以降)
Windows	Windows	445、135、137、138、139	なし	445、135、137、138、139	なし
Windows または Linux	Linux	22	なし	22	なし

表は続く

SUM を実行中のシステム	ターゲットのノードタイプ	インベントリフェーズ		展開フェーズ	
Windows または Linux	VMware: Gen9 および以前のサーバー世代でのみ	443、5989	63001	443、5989	63001
Windows または Linux	OA	22、(80)、443	なし	22、(80)、443	なし
Windows または Linux	Superdome X	22、(80)、443	なし	22、(80)、443	63001、63002
Windows または Linux	iLO、VC、FC スイッチ、SAS スイッチ	22、(80)、443	なし	22、(80)、443	63001
Windows または Linux	Superdome Flex	443	なし	443	63002

SUM は、Windows および Linux の両方のシステムで、ポート 63002 を使用して `sum_binary` アプリケーションおよび `sum_service` アプリケーションの間で通信します。ポートが両方の列に表示されている場合、双方向通信が行われます。

注記:

- Windows から Windows へのトラフィックでは、WMI、つまり標準の DCOM-In ポート 135、Async-in、および WMI-in を使用します。
- iLO レポジトリを使用するには、iLO を「ターゲットのノードタイプ」として使用する必要があります。

ファイアウォールの競合がある場合は、`/port` パラメーターと `/ssl_port` パラメーターを使用して、ポートを 63001 および 63002 から変更します。`/open_firewall` を使用して、SUM が外部アクセスに使用する HTTP ポートと HTTPS ポートを開きます。リモートノード機能やリモートブラウザアクセスを実行するには、これらのポートを開きます。以下に例を示します。

```
smartupdate /port 80 /ssl_port 443
```

`/ftp_port` パラメーターを使用して、FTP サービスで使用するポートを割り当てることができます。デフォルトでは、FTP ポートは無効です。このオプションで Web サービスを有効にします。

.ini ファイル内のポートアドレスの変更

`sum.ini` ファイルを編集するか、`/port` または `/ssl_port` の CLI パラメーターを使用することによって、SUM が使用するネットワークポートを変更することができます。SUM CLI モードの使用については、Smart Update Manager CLI ガイドを参照してください。

次に、よく使われる代替ネットワークポートを示します。

手順

- `port=63001` を編集して、`port=80` に変更
- `ssl_port=63002` を編集して、`ssl_port=443` に変更

コンポーネントの依存関係

SUM は、コンポーネントの展開を試行するまで、ライブラリの依存関係が欠けていることを認識しない場合があります。コンポーネントのログファイルに Return Code = 7 エラーが含まれる場合、64 ビット Linux オペレーティングシステム上で実行しており、システムに必須の、依存関係のある 32 ビットライブラリが存在しないことを意味します。

iLO チャネルインターフェイスドライバー

SUM が iLO ノードのファームウェアバージョンを判別できるようにするためには、iLO CHIF ドライバーをインストールする必要があります。詳しくは、iLO 4 ユーザーガイド (http://www.hpe.com/support/ilo4_ug_ja) および iLO 5 ユーザーガイド (https://support.hpe.com/hpsc/doc/public/display?docid=a00018324en_us) を参照してください。

Linux ノードの場合、iLO CHIF ドライバーの名前は `hpilo.ko` です。サポートされる Linux ディストリビューションにはカーネルモジュールが含まれます。

インストール手順

インストール手順については、次のドキュメントを参照してください。

Smart Update Manager ユーザーガイド

部品番号 ; 881504-197

版数 : 1

関連情報

SUM の最新のドキュメントについては、Smart Update Manager Information Library の Web サイト <http://www.hpe.com/info/sum-docs> を参照してください。使用可能なドキュメントは以下のとおりです。

- ・ Smart Update Manager ユーザーガイド
- ・ Smart Update Manager リリースノート
- ・ Smart Update Manager CLI ガイド

GUI で Smart Update Manager オンラインヘルプを開くには、アプリケーションの右上隅にある ? をクリックします。

CLI オプションの使い方に関するヘルプは、Smart Update Manager ユーザーガイドを参照してください。SUM を保存したディレクトリで `smartupdate /h /s` (CLI モード) または `smartupdate /h` (対話式 CLI モード) と入力することもできます。

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。